

# 経営比較分析表／団体全体（令和3年度決算）

神奈川県 川崎市

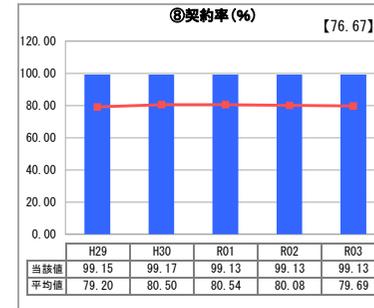
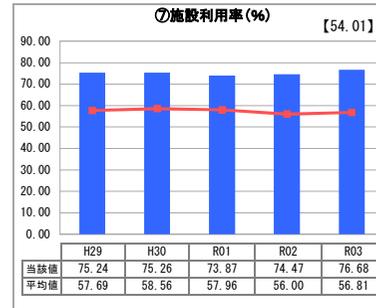
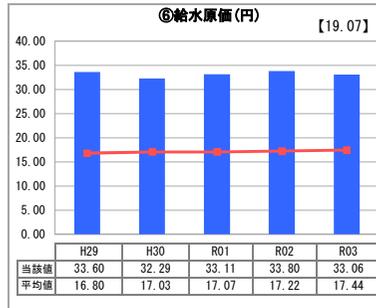
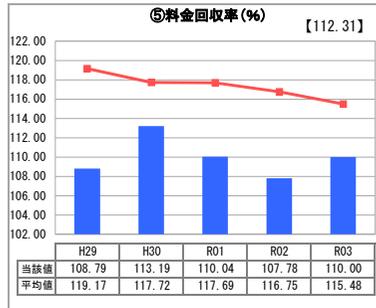
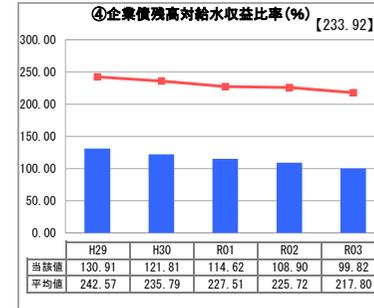
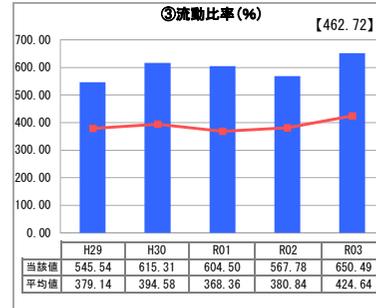
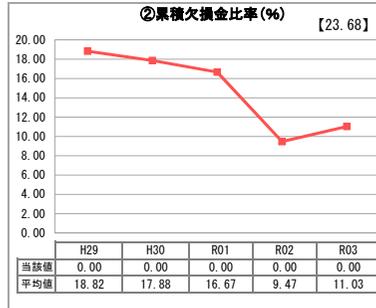
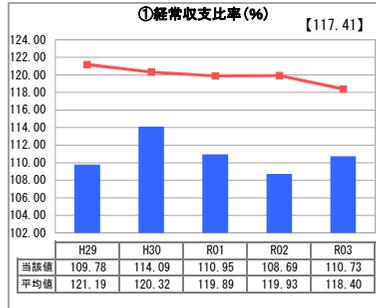
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)( $m^3$ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量( $m^3$ )
法適用	工業用水道事業	520,000	大規模	1	398,730
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量( $m^3$ /日)	管理者の情報	
-	72.8	78	515,470	自治体職員	

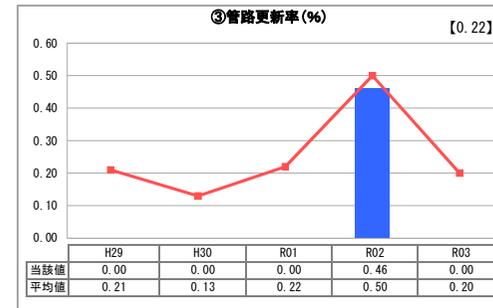
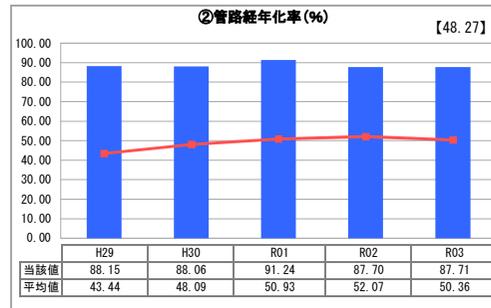
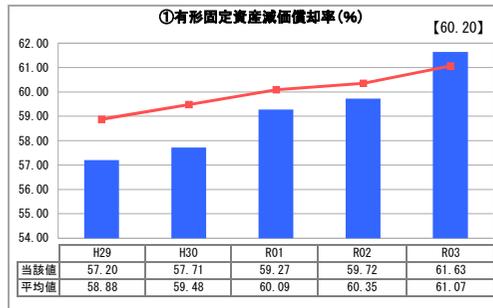
## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

川崎市は、昭和12年に全国初の公営工業用水道事業として給水を開始して以来、重化学工業を中心とした本市の産業経済の基盤施設として発展してきました。また、適正な事業規模へのダウンサイジングを主軸とした再構築計画に基づき、将来の工業用水道利用者の契約水量の動向を踏まえ、給水能力のダウンサイジングを実施しました。

○①**経常収支比率**は、類似団体平均を下回っているものの、100%を上回っており、②**累積欠損金**は計上されていないため、経営の健全性は維持しています。また、③**流動比率**は、類似団体平均を上回っており、短期的な資金繰りには問題ないものと考えます。しかし、今後、老朽化対策等により更なる更新需要の増加が見込まれることから、長期的な経営状況を考慮し、④**企業債務高対給水収益比率**が増加しすぎないよう留意しながら、更新を計画的に進める必要があります。

○⑤**給水原価**については、類似団体平均よりも高水準で推移しています。⑥**料金回収率**は、類似団体平均を下回っているものの、100%以上を維持していることから、給水に係る費用を給水収益で賄えています。

○⑦**施設利用率**及び⑧**契約率**は、再構築計画に基づき、給水能力をダウンサイジングしたことから、類似団体平均と比較して高水準で推移しており、施設が効率的かつ適正な規模で運用されています。

### 2. 老朽化の状況について

○①**管路更新率**が低い水準で推移し、①**有形固定資産減価償却率**及び②**管路経年化率**が、類似団体平均と比較して高水準で推移していることから、資産の老朽化が進行している状況であり、今後は施設・管路の更新が喫緊の課題となっています。

## 全体総括

○今後は、老朽化の状況に関する指標が示すとおり、老朽化が進んでいる施設・管路の更新に伴い、更新需要の増加が見込まれるため、アセットマネジメント手法等を活用した効率的かつ計画的な更新が必要です。

○将来の需要動向を可能な限り把握するとともに、将来にわたって安定給水ができるよう、ハード・ソフト両面から、更なる基盤強化に向けた取組や検討を進めます。